

平成21年度第1回安曇野市スポーツ振興審議会 会議概要

1	審議会名	スポーツ振興審議会
2	日 時	平成21年10月23日 午後7時05分から午後8時15分まで
3	会 場	豊科総合支所 第二会議室
4	出席者	渡辺 展猛・西村 義夫・青嶋 愛子・黒岩 光美・須山 芙美子 丸山 義春・山田 賢一・臼井 良臣・宮島 義征
5	市側出席者	赤羽課長・藤原係長・横山企画員・中島主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成21年10月28日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	
	(1) 開 会	(藤原係長)
	(2) あいさつ	(渡辺会長・赤羽課長)
	(3) 協議事項	
	①スポーツ振興事業の取り組み(藤原係長より説明)	
	・スポーツ教室の実施事業	・コーディネーショントレーニング普及事業の状況
	・市民スポーツ祭開催に向けての状況	
	(渡辺会長) 以上のところで質疑、要望等ありましたら、発言願いたい。 (発言なし)	
	②スポーツ施設整備状況(藤原係長より説明)	
	(渡辺会長) 今のところで質問等ありましたら、発言をお願いしたい。	
	(臼井委員)	校庭芝生化っていい事業だと思うが、これは長期的な計画はあるのか。
	(藤原係長)	小学校校庭芝生化、自分たちの手作りということで鳥取方式を採用している。この使う芝は非常に繁殖力が強く踏み付けにも強いが、唯一の弱点が暖かい地方で育つ芝で、最初これを実施する時に長野県の気候に適合するかどうかという課題があった。今回、試験事業ということで穂高西小のほうで実施した。冬越しができるかどうか大きな課題。この冬越しができれば、長野県でも育つということが実証できるので、それによって今後、希望のある学校のほうへ相談しながらこの事業も広く進めていきたいということで市のほうは考えている。
	(臼井委員)	三郷のほうとは違うのか。
	(藤原係長)	三郷のほうは業者が入って行った芝。種類も三郷の芝は冬型。どこが違うかいうと冬芝というのは秋から冬にかけて、冬越しして春から夏の手前にかけて成長する。夏の最盛期には成長が止まるわけです。その時期に使うとダメージがあるという状態。夏芝というのは夏に非常に繁殖し、冬は成長が止まるのでその時使うとダメージがあり、まったく三郷とは違う方式で管理も含め低コストで地域の方々の協力をいただきながら行うことを考えている。
	(臼井委員)	フィールド内だけに植えてあるとサッカーでグラウンドを使う時、コート内に芝生のあるところとないところがあり使いづらいのではという心配があるが調整はどうしているのか。
	(藤原係長)	まず学校側とも話していて、全面に張ってしまうと体育とかで使えない期間がでてしまう。今回はトラックの中と外の北側の部分ということで芝の養生期間約2ヶ月間も使える状態であった。サッカーの試合となると不都合があるが、練習においては穂高西小学校もサッカースポーツ少年団で使っているが練習は快適に行われているということで、今後は全面芝生、部分芝生含めて様々な検討が必要になってくると思う。
	(西村委員)	テニスコートの人工芝の張替え工事の金額が高いが、だいたい何年くらいの耐久か。
	(横山)	穂高会館のテニスコートは4面あるが2面ずつ施工年度が違う。片方は平成3年に、残りの2面は平成5年の施工になっている。豊科の南部公園のテニスコートは作って10年である。人工芝もポリプロピレンというナイロンに砂をつめたテニスコートになっているわけだが、磨耗

協 議 事 項 等

してくることはどうしてもしょうがない。10年くらいのサイクルで変えていくことが理想ではないかと考えている。穂高会館のほうは使い過ぎて部分的に穴のあいたように見える。

(丸山委員) 21年度の話聞いたが、分かっている範囲で22年度の計画はどんな感じか。

(藤原係長) 今のところ大きなものの計画はない。この後協議していただくスポーツ振興計画の中で計画的な整備を検討していく必要があるということで考えている。支障のする緊急的なものはやっていく。

(赤羽課長) 明科と穂高の関係は今年やる予定ではなかったけど、国の緊急経済対策によってやるようになったものである。龍門湖公園と南部総合公園の関係は都市建設部のほうでやることになっている。

(丸山委員) 前にもお願いしてあることだが、穂高総合体育館のブラインドの改修はどうなっているのか。卓球の大会をやるのにも台を動かしながらやっている。スポーツ振興計画ができないと改修されないのか。

(藤原係長) 穂高会館については耐震補強工事が必要な施設で避難所ともなっている。工事費は数百万だが、足場を組むのに約二千万円かかるので、耐震補強工事にあわせてやることを考えている。耐震補強も早急にやらなければならないことでスポーツ振興計画22年度末に策定予定なので、その計画の中で早いうちにやらなければいけないと考えている。

③生涯学習推進計画について(藤原係長より説明)

(渡辺会長) 今の生涯学習推進計画について意見があったらお願いしたい。

(白井委員) 指針が気になる。スポーツイベントの参加者数が21,460人と言うけど、この指針でいいのか。スポーツイベントとはどのことを言っているのか。

(藤原係長) この数は、市民運動会、各種スポーツ教室などの延べ参加者数になっている。

(白井委員) 寂しいような気がする。別のページに体育施設利用者数がでていますがこちらとはリンクしてないのか。

(藤原係長) こちらのほうはバレーボールなど通常の練習に使われている方の人数の積み上げなので、スポーツイベント参加者の数とは異なる。

(白井委員) 今度、市民スポーツ祭をやって5,000人ばかり参加したなら、その数がイベント参加者数になるということで、そういう意味でのスポーツイベントという捉え方でいいのか。

(藤原係長) そういう形で考えてもらえばよい。

(宮島委員) 今の関連で平成29年の目標が30,700人、何を元にだしたのか。目標としてそういうことでいいのか。県の計画にも週1回以上運動する成人の割合を50パーセントといったような兼ね合いの中や統計の取り方も検討する必要があると思う。

(藤原係長) 統計の取り方、どこまでを捉えるかで違ってくるかと思う。この数値はあくまでも目標ということでこれを上回ることにこしたことはないので、市で企画するイベントはこれを超えるような形で考えていきたい。

(宮島委員) 一つの評価基準になってくると思う。

(白井委員) 新たなスポーツ施設の整備のところに体育協会加入者数の目標があるが、施設整備充実をすれば利用者が増え、スポーツしたいから体育協会に入るという想定でこの数値があるという解釈でいいのか。

(藤原係長) 体育施設を利用する方で体育協会の方の割合が高いということもあり数値を載せてあるし、白井委員の言われた意味も含んでいる。

(白井委員) 体協の人数は7,000人くらいか。

協 議 事 項 等

(宮島委員) だいたいこの辺、前後。10,000人は超えたいと思っている。

(白井委員) 利用者数はいい施設ができれば、増えてくると思う。

④スポーツ振興計画策定について（藤原係長より説明）

(渡辺会長) スポーツ振興計画策定について意見、要望があったらお願いしたい。

(白井委員) アンケートについてだが、10万人の人口に対して2,000人の抽出は統計学的に適当か。

(藤原係長) 専門業者に確認しましたところ十分、市民の意向が反映できるとのことである。

(白井委員) 後でアンケートの設問がおかしいというような意見がでて逆戻りしないようにしないといけない。設問内容も市の職員が目を通すだけでなく、ほかの人にも見てもらったほうがよい。

(藤原係長) この審議会のほうで設問内容の確認していただくことはどうか。

(白井委員) ここにいるメンバーもスポーツに係わっている方ばかりなのでどうかとも思う。聞いていただけるなら真剣に考える。

(西村委員) ここでも目を通させてもらいたい。

(赤羽課長) アンケートは市民のニーズを把握したいことが大きいところである。市民のみなさんがどんなふうを考えているかを振興計画に取り入れていきたい。多く人に見てもらうことは大事なことだと思う。

⑤その他

(渡辺会長) 事務局のほうからは特に無いようだが、全体で何かあったらお願いしたい。

(渡辺会長) 市民の方の考え方がいろいろあるでしょうが、なんとかいい方向に実現するようになってもらいたいということで委員の方もよろしいか。(よい)ダメだってことにならないようにお願いしたい。

(西村委員) 審議会とは関係ないが、新型インフルエンザの状況を教えていただきたい。

(赤羽課長) 小中学生の感染者が99名、濃厚接触者が55名である。今週に入って増えた。スポーツ少年団には県の通知もあわせて市のほうからも自粛を促し蔓延しないように通知した。対策にご理解ご協力をお願いしたい。

(藤原係長) 学校のほうで気をつけていてもスポーツ少年団など学校外の活動で感染したのではないかと疑われる事例も県内では聞かれる。基本的な考えとして自分のクラスが学級閉鎖になっていれば、スポーツ少年団の活動は学級閉鎖が解除するまででないということで通知は出してある。